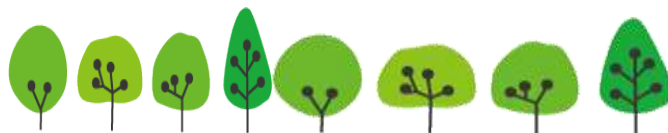


いちりん通信

No.34

オーダーメイドの治療を目指して



【症例報告】

文京区 A様 83歳 女性 慢性関節リウマチ 週3回治療

Aさんは若い頃からの慢性関節リウマチが徐々に悪化し、整形外科の主治医からも「今さらリハビリしてもねえ…」と見放される始末。「慢性＝治らない」という周囲の意見に反発して、当院のリハビリマッサージをお申込みになりました。

その1 三者三様の手技

実はAさん、以前にも訪問マッサージや訪問PT（理学療法）を受けていたことがあるとのこと。当院のリハビリマッサージを受けてしばらくした後、Aさんはこんなことをおっしゃいました。「一隣堂さんの施術は三者三様ね。可笑しくなっちゃう位人によってみんな違うんですねえ。」率直に言ってくださり有り難い限りです。

しかし、当院では治療方法の統一はしていません。皆、一人一人が違う手技を持ち、それぞれの診立てをしながら治療にあたっているのです。

その2 最善の治療を提供するために

なぜでしょう？

それは、リハビリマッサージと一口で言っても、治療方法や診立ての仕方は山ほどあるからです。しかも、各施術者はそれぞれの師匠のもと、それぞれの診立てや治療方法を学び、当院のスタッフとして集まってきました。従って、患者様に最善の治療を提供するためには、最大公約数的な治療方法ではなく、それぞれが得意とする手技を活かして臨み、互いに内容を共有し合うことなのだと私たちは信じているのです。

その3 大切なのは「共有」

ここで大切なのは、施術者が互いに診立てや治療内容、その結果を共有し合うことです。これは、会社としてはとても手間とお金のかかることなのですが、これこそが治療院の命なのだと信じて、私たちは日々技術の向上に努めています。患者様のお身体や性格はお一人お一人違います。ゆえに、治療方法が同じで良い筈は無いのです。当院はオーダーメイドの治療を目指していきます。（北川）

